

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ 意見まとめ

地区	西浦地区	回数	第2回
日時	平成29年10月7日(土) 午後1時30分～午後4時		
会場	西浦公民館 講堂	参加者数	18名

1. 課題解決に向けた視点

■ 7つの視点ごとの課題と配慮すべき事項

①地区の活性化

空き家や空き店舗などの民間の建物を、小さな公民館のような公共的な場所として使うことも公共施設の再配置と同時に考えていくべきだ。

- ・ 「空き店舗活用によるまちの活性化」という記述があるが、空き家のような民間建物を地域住民の憩いの場などの公共的な場所(小さな公民館)として使うことも公共施設の再配置と同時に考えていくべきだ。

③教育環境の適正化

前回のまとめで「小学校と児童館は離れていて不便」との記述があるが、「児童館で行われている児童クラブが小学校と離れていて不便」なので児童館から児童クラブ機能を切り離して、小学校に統合するのがよいという意味で発言したものだ。

- ・ 「小学校と児童館は離れていて不便」との記述があるが、「児童館で行われている児童クラブの活動が、小学校と離れていて不便」だという意味で発言した。児童館と小学校を合築してほしいということではなく、児童館から児童クラブの機能を切り離して小学校に統合するのがよいと思っている。

西浦中学校の生徒へのアンケートを行った結果、今までずっと少人数で過ごしているので、高校に進んでからの友達づくりや人間関係が不安だという意見や体育祭が学年対抗になってしまうため下級生と上級生では勝負にならないという意見があった。

- ・ 西浦中学校の生徒にアンケートを行った。その結果、今までずっと少人数で過ごしているので、高校に進んで友達づくりや人間関係を作るのがうまくいか不安だという声を複数得た。また、体育祭を開催した際にクラス対抗ができず学年対抗になってしまうが、中学生の時期は1学年の差で大きな体力差があるので、いつも勝負にならないという意見があった。

⑥将来負担の軽減

コスト削減のことを考えれば、公共施設を複合、集約してもいいと思う。

- ・ コスト削減のことを考えれば、公共施設を複合、集約してもいいと思う。

⑦運営の改善

公民館は地区の会合くらいでしか利用していない。子供たちは児童館に遊びに行っているし、祭りの準備や練習は各字の集会所で行っている。

- ・ 自分が幼い時は公民館の2階に卓球スペースがありよく遊びに来ていたが、児童館ができたことで公民館を子どもたちが訪れることはなくなった。
- ・ 今まで公共施設はほとんど使ってこなかった。現在は民生委員の寄り合いなどで利用している。
- ・ 公民館は、PTAや地域の役が回ってきて、話し合いがある時ぐらいにしか利用しない。お祭りの時も公民館はトイレに使うぐらいで、各字の集会所でまつりの準備や練習をしている。

■追加すべき視点

西浦は祭りが盛んな地域だが、それにまつわる行事への参加や金銭の負担が若者の地域離れにつながっている面もある。若い世代が出ていかなないようにする、人口減少を食い止めるという観点からも公共施設再配置の議論を深めるべきだと思うので、「文化の継承」という視点を提案したい。

- ・ 「文化の継承」という視点を提案したい。西浦は地域ごとに神社があり、お祭りも盛んだ。しかし、神社にまつわる行事への参加や金銭の負担から、現代の若い世代に敬遠されてしまい、それが地域離れにつながっているという問題もある。西浦から若い世代が出ていかなないようにする、人口減少を食い止める、といった観点からも公共施設再配置の議論を深めるべきと思う。

交通事故や犯罪に対する安全確保の視点を追加してほしい。

- ・ 交通安全や犯罪からの安全確保の視点を追加してほしい。中学生からは道路が暗いことや野犬が多いことへの懸念がアンケートで出された。

2. 課題解決のために取り組むべき事柄

■活性化

大企業や小さくても特色ある技術を持った優良企業を誘致することで活性化を図る。

- ・ 大企業や小さくても特色ある技術を持った優良企業を誘致する。

祭りは字単位で行っているのので、地区全体としての盛り上がりや外部へのアピールに欠ける。祭りに参加する子供の数も減ってきているので、伝統を受け継いでいけるような工夫をすると共に、地区全体を盛り上げる新たなイベントを企画し、推進していきたい。

- ・ 地区の活性化を進めるためには、公共施設を見直すだけでなく、イベントなどソフトにも取り組むべきだ。現在のお祭りは字単位になっており、他の字の人すら日程や内容な

どをよくわかっていないので、ましてや他地域から電車などに乗ってわざわざ見に来ることもない状況だ。「夢ウォーク」と題して、西浦地域の複数の神社などの地区のスポットをめぐる取組みをしている。こうした西浦全体を盛り上げるイベントを進めていきたい。

- ・ ちゃらぼこで太鼓を叩いている。地区の活性化の点で、お祭りなど古いものは大事にしていきたいと思っているが、塾や習い事があるので子どもたちあまり参加してもらえない。大人でもよいのでお祭りに参加してもらい、伝統を受け継いでいけるようにしたい。

学校の空き部屋を地域の活動に活用できるとよい。

- ・ 学校の空き部屋を地域の活動に活用できるとよい。

海を観光資源として活用したい。海岸等に自由に出入りできるようになるとよい。龍田浜に魚市場を移転する計画があり、周辺道路整備も進んでいるので、魚市場の移転に合わせて観光施設を整備すれば活性化につながるのではないか。

- ・ (公共施設から話題がそれるが) 龍田浜に魚市場を移転する計画があり、それに合わせて道の駅などの物産販売やバーベキュー場などの観光施設を整備すれば活性化になる。龍田浜は道路整備も進んでおり、夕日や桜並木などを活用して名所づくりができる可能性がある。
- ・ 漁業権の関係があり今は海岸が自由な空間ではない。海岸等の出入りを自由にできるようにすることで、海という資源を活用できる。

■人口減少・少子高齢化社会への対応

用途地域を緩和して宅地化を進める、市営住宅を建設する等によって人口減少に歯止めをかけることはできないか。

- ・ 西浦地域内は調整区域もあり、宅地化が抑制されている。用途地域を緩和し、人が住めるようにしないと人口減少は進むと思う。
- ・ 市営住宅を建設する。

地域内に産業を誘致し、雇用につなげ、地域で住み続けられるようにしたい。

- ・ 地域内に産業を誘致し、雇用につなげ、地域で住み続けられるようにしたい。他の地域では海のない地域で養殖に取り組む事例などもある。

公共施設を適切に再配置するだけでは人口減少を止められないのではないか。公共施設の再配置だけでなく、若い世代や子育て世代が住みたくなり定着するような取り組みが必要だ。それには、例えば、安い賃貸住宅の提供、税の優遇などを行って居住を推進する

ことが考えられる。また、子どもの医療費負担の軽減、病児保育や祝日保育の実施などによって子どもを預けやすく、働きやすい子育て環境にしていくことが考えられる。

- ・ 若い人が住みやすくなるようにしたり、土地代を安くしたり、名鉄利用者は税金を減免するなど工夫できるとよい。
- ・ 現役世代が地区外に出て行ってしまう現実がある。自分も子育てをする時期に、しばらく西浦を離れていた。これは当時、子どもの医療費にかかるお金が某自治体の方が低かったことや交通の利便性など、子育て環境の良し悪しを総合的に判断した結果だった。従って、公共施設を適切に再配置するだけでは人口減少を止められないし、端的に言う関係ない。公共施設の再配置は、別の政策と同時に考えるべき。
- ・ 若い世代が定着しないことへの対策として、空き家を安く貸したり、税金を優遇するなどして、居住を促進してはどうか。
- ・ 若い世代が住みたくなる地域になるように子育て環境を整える。預けやすい、働きやすいしくみを整える。例えば、病児保育、祝日保育などが考えられる。

西浦地区の公民館は高齢者が集う場になっていない。カフェや食堂があり、農作物や海産物、手づくり品の販売所があるような場になるとよい。高齢者のコミュニティの場となるし生きがいつくりにもつながる。

- ・ 西浦地区には公民館はあるが、高齢者が集うようなコミュニティ施設になっていないので、そういう場がほしい。飲食できるカフェや食堂があつたり、農作物や海産物、手づくり品を住民が持ち寄って販売するような場所があるとよい。高齢者の生きがいつくりにもつながる。

■複合化・集約化

小学校と中学校を統合して建て替えれば、体育館、保健室、防災施設などが共有できる。借地代、建築費、防犯にかかるコスト等が抑えられ、経費の節減につながる。教師は小学校、中学校を一貫して子どもを見ることができる。

- ・ 複合化すれば借地代、建築費等の経費節減につながる。
- ・ 現状の立地で各々の施設を縮小して建替えるのではコストがかかる。小学校、中学校を統合して建替えるのはどうか。
- ・ 小学校と中学校を統合して建て替えれば、体育館、保健室、防災施設などは共有施設にできる。
- ・ 小、中学校を集約化すれば、防犯面のコストを効率的に抑えられる。
- ・ 専門教科の先生は小学校、中学校と一貫して児童生徒を見ることができる。

小学校、中学校、保育園が1カ所があれば、異年齢との交流の場になり、教育的な効果も期待できる。合同で運動会を行えば盛り上がるし、複数の子どもの持つ親にとっては、避

難場所が集約されるので災害時に子どもを引き取る際も安心だ。

- ・ 小学校、中学校、保育園が1カ所にあり、合同で運動会を行うことで、盛り上がるだけでなく異年齢との交流の場にもなり、異年齢の世話をするなど教育的な効果も期待できる。運動会を競争の場とだけ捉えなくてもよいのではないか。
- ・ 子どもを保育園、小学校、中学校にそれぞれ通わせている家もある。小学校、中学校、保育園が複合されれば、子どもたちの避難場所が集約され、保護者が災害時に子どもを引き取る際も安心だ。

小学校に保育園、公民館、児童クラブ、派出所、消防署を複合し、一体感のある地域の拠点を作ってはどうか。小学校に施設を複合すれば隣接する公民館の敷地を使え、アクセスしやすい。

- ・ 小学校、保育園、公民館、児童クラブ、派出所、消防署を複合し、スーパー西浦センターとなる拠点を作ってはどうか。小学校も保育園も同じ敷地にあった時代がある。あの頃のような一体感のある施設づくりが望ましい。
- ・ 小学校に複合した方が、隣接する公民館の敷地を空きスペースに使え、アクセスもしやすい。

現状は児童クラブが児童館で行われているが、小学校から遠く、手狭にもなっているため、空き教室を利用したりして小学校と児童クラブ機能を一緒にした方がよい。

- ・ 現在、児童クラブと小学校が離れている。小学校内に児童クラブが集約されると子どもたちも移動がしやすくなり、便利になるだろう。
- ・ 小学校と児童館の児童クラブ機能は一緒にした方がよい。空き教室を利用してはどうか。児童クラブが小学校内にあれば移動の手間も省けるし、手狭な状況も解消される。児童クラブが小学校に移れば、児童館のスペースも広く使えるようになる。
- ・ 現状は児童館で行われている児童クラブも、小学校から遠いと不便なので、同じ敷地内にあるとよい。

建て替えを機に小学校と中学校をそれぞれ複合化し、地域に学校を中心とした2つの拠点を作ってはどうか。中学校に高齢者向け施設や公民館を複合すれば、多世代交流が生まれ、高齢者がボランティアとして学校に貢献する機会ができるなど、生徒にとっても高齢者にとっても良い効果が期待できる。

- ・ 市からの「小中学校に関しては、直近5年程度の時間の中で建て替え問題が発生する」という情報に基づくと、建て替えが想定される小学校と中学校にそれぞれ機能を複合する2拠点モデルがよいのではないか。
- ・ 中学校には高齢者向け施設を複合してはどうか。現状既に、年1回中学生ボランティアが高齢者のお宅に出向き、掃除や窓ふきのお手伝いをする、といったボランティア活動

をしている。今後はむしろ逆に元気な高齢者が、中学生のために学校でボランティアをする機会があってもよいのではないか。

- ・ 住民、特に高齢者が、時間と経験を持て余している。例えば、学校教育のお手伝いとしてボランティア活動にいそしむなど、積極的に高齢者の活躍の場をつくるようにすべきだ。
- ・ 高齢者と子どもの交流の機会を増やす、という意味では中学生との交流の方がベターだと思う。小学生では幼い。中学生であれば高齢者と一緒に何かやるにしても自分で判断ができる年齢である。高齢者施設や公民館機能を複合化するなら、小学校よりも中学校の方がいい。

学校と公民館や地域の交流スペースを複合化すれば、学校と地域住民の交流を増やせると共に、生涯学習をする人達や高齢者とのふれあいが児童、生徒に刺激や良い影響を与えるのではないか。防音や設計の工夫をすれば静かな学習環境は守られるだろう。

- ・ 学校と公民館や地域交流スペースとの複合によって、学校と地域住民の交流を増やせる。情報を頻繁にやりとりする環境が必要。インターネットを使わない人が多いので。
- ・ 公民館や地域の交流スペースなどと複合化すれば、生涯学習する人を見て生徒達が刺激を受けるかもしれない。お年寄りの存在が子供の教育面に良い影響を与えるということが多いにあると思う。
- ・ 学校とその他の施設を複合化することで、静かな学習環境が阻害される懸念もあるが、防音をしっかりして設計の工夫をすれば解決できるのではないか。

児童館は子どものため、公民館は大人のためと施設を分ける必要はない。複合化した方が多世代交流が期待できる。

- ・ 児童館を子どものための施設、公民館を大人のための施設として分ける必要はないだろう。公民館と児童館を集約することで、多世代が交流できることに期待したい。

子どもの教育環境として児童生徒数が少ないのは良くないと思うので、小学校も中学校も形原地区と統合するのもやむを得ない。遠距離通学が課題になるがスクールバスなどで補うことはできるだろう。

- ・ 小学校も中学校も形原地区に統合するべき。子どもの教育環境として児童生徒数が少ないのはよくない。西浦だけで小中学校を統合しても学年の児童生徒数は変わらない。合理的に考えて西浦が形原へ統合することになるがやむを得ない。遠距離通学が課題になるがスクールバスなどで補うことはできる。

部活動の選択肢が多く、いろいろな人と接し、競争の機会がある環境の方が子ども達の成長にとって好ましいのではないか。遠方の中学校まで通う地域もあると聞くと、中学校は

形原と一緒にした方がよいと思う。

- ・ 中学校は形原と一緒にした方がよいのではないかと。自分自身は西浦中学校を卒業したのでなくなってしまうのはさみしいが、孫たちのことを考えると、部活動を選べなかったり競争する機会がないのはかわいそうだと思う。部活動が少ないと、特に運動に自信がない子どもは文化系部活動が少ないため自分の得意分野を発揮する機会が減ってしまう。いろいろな人がいることを小さい頃から教えてあげた方が、子どもたちの成長にはよいと思う。
- ・ 前回、形原中学校との統合の話が出ていたが、小学校5校から1校の中学校に通う地域もあると聞いた。遠方の中学校に通うのは自然、20～30分の自転車通学は当たり前という地域もある。

十分な数の部活がないからという理由だけで、西浦中学校を形原中学校と統合するのはどうかと思う。形原までは自転車で通うことになると思うが、道路が狭くて歩道もないので危険だし、やはり中学校は自宅近くにある方が通いやすくよい。

- ・ 中学校は、自宅近くにある方が通いやすくよい。十分な数の部活がないからという理由で西浦中学校を形原中学校と統合するのはどうかと思う。
- ・ 形原中学校に通うことになる自転車通学になると思うが、道路が狭く歩道もないので自転車で遠方まで行くのは危険だ。

複合施設をどこの敷地に作るかは、借地代のことも考えた上で検討するのがよい。

- ・ 様々な機能を複合した施設を現状の小学校の敷地につくるかどうかは、借地代のことを考えた上で要検討と思う。

■立地の現状維持

学校や公民館などそれぞれの施設の目的と良さを生かすには、現状の立地で縮小して建て替えた方がよいのではないかと。特に中学校は生徒たちが学習に集中できるように、他の施設と複合しない方がよいと思う。

- ・ 現状立地で縮小建替えがよい。中学校は高台にあって静かに勉強できる環境がある等、施設それぞれの良さがあるのだから、複合化などはよく思わない。
- ・ 中学校は生徒たちが学習に集中できるように他の施設と複合しない方がよいと思う。

■防災・防犯

西浦中学校には津波の際の防災拠点としての役割があるので、移転するにしても存続するにしても、高台の立地を生かせる今の場所で防災機能を維持できるとよい。その際、高齢者や車イス利用者などの弱者に配慮する必要がある。

- ・ 統合によって西浦中学校の敷地が活用できるなら、防災拠点やコミュニティ拠点とし

て活用するとよい。海に近い西浦地区は津波が心配されるが、中学校敷地は高台にあるため津波の被害が少ない。ただし、高台のため高齢者や車イス利用者など弱者が避難しにくいという課題がある。

- ・ 津波の際の防災拠点としての役割があるので、中学校には引き続き、拠点となる施設が必要だ。

西浦では派出所も消防署もなくなってしまった。派出所がなくなり犯罪や交通事故が増えたのではないか。再配置を機に施設を複合化するなら、安全安心なまちづくりを進めていくために、防犯や防災の機能も入れてほしい。

- ・ 西浦では派出所も消防署もなくなってしまった。派出所がなくなり犯罪や交通事故が増えたのではないか。安全安心なまちづくりを進めていくためにも、施設再配置を機にこうした防犯や防災の施設も合築してほしい。

高齢者の移動のしやすさや津波の際の避難のことを考えると、住まいから近い場所に逃げられることが重要だ。避難所は1カ所に集約するより分散した方がよいので、公共、民間に関わらずに設置してほしい。

- ・ 災害で一番心配なのは津波だと思う。住まいから近い場所に逃げられることが第一なので、避難所は公共施設にこだわらずに設置すべきだ。現在も、公共、民間に関わらずに高台にある施設を避難所としている。
- ・ 高齢者が避難することを考えると、避難所は一箇所に集約するより分散した方が移動しやすいのでよい。

備蓄品は民間のスーパーや店舗と協定を結んだり、各自で備蓄した方がよい。公共施設の防災機能としては、備蓄品の管理よりも住民の命を守ることを優先して考えてほしい。

- ・ 備蓄品をまとめて保管すると、定期的の中身を交換する必要がある。備蓄品は民間のスーパーや店舗と協定を結べばよい。あるいは各自で備蓄した方がよい。
- ・ 公共施設の防災機能としては、備蓄品の管理よりも住民の命を守ることを優先して考えてほしい。

■アクセス

コミュニティバスを運行したり、くるりんバスを西浦地区まで延伸することで、小中学生の通学や高齢者の買い物や通院などの外出の足を確保できるとよい。施設の複合、集約に合わせて実現させれば、効率的な運行ができ、施設までのアクセスも整備できるだろう。

- ・ 小中学校や児童館や保育園など子どもの施設と、公民館など高齢者がよく使う施設を複合化、集約化すればコミュニティバスの運行がより効率的にできる。
- ・ 西浦地区の商店が減り、高齢者等の買い物弱者が発生している。買い物や通院など生活

を支える移動のコミュニティバスを走らせてほしい。もし、小中学校の統合でスクールバスが運行されるなら、高齢者のコミュニティバスと兼用で運行することで効率化が図れる。

- ・ コミュニティバスが西浦まで延伸すれば、交通の不便はだいぶ解消されると思う。
- ・ くるりんバスを西浦地区まで延線できるとよい。
- ・ 中学校に集約した場合、高台になるため小学生は通学が大変になりそうだが、足腰を鍛える点ではよいかも知れない。高齢者の場合は、くるりんバスなどで建物まで車をつけてくれば、問題ないだろう。

徒歩や自転車で安全に通学できるように、通学路の整備をすることが重要だ。また、西浦中学校の生徒は、西浦駅まで自転車以外のアクセスが必要だと思っているようだ。

- ・ 西浦中学校の生徒は、西浦駅まで自転車以外のアクセスが必要だと感じているようだ。
- ・ 徒歩や自転車で安全に通学できるように、通学路の整備をすることが重要だ。

施設を複合する際には駐車場の整備も同時にしてほしい。現在の公民館の駐車場はスペースが足りないが、複合化することで駐車場がまとめて確保できることを期待している。

- ・ 集約するのはよいが、駐車場の整備をしてほしい。現在の公民館の駐車場では、スペースが足りない。1カ所に集約化することで、駐車場がまとめて確保できることは期待したい。

運転できない高齢者にとって、車でないと行けない、移動のために誰かの助けが必要になる場所は敷居が高い。高齢者が公共施設に通いやすくなるようにアクセスを整備してほしい。

- ・ 西浦公民館では「行くかん」として高齢者が集まって食事をしたりするサロンを開催しているが、近所に住んでいる人しか来ていない。少し離れたところに住む人は、お嫁さんに車を出してもらわないと来られないため、遠慮して来られないようだ。特に高齢者が公共施設に通いやすくなるようにアクセスを整備してほしい。

名鉄蒲郡線は西浦住民にとっては不可欠なので、利用を促進したり、地区を活性化することで他地区住民からの継続の賛同を得たりすることで存続できるとよい。

- ・ 名鉄は西浦の地域住民にとっては不可欠だが、他の地域の人には西浦まで税金を投入して鉄道を通す必要があるのかと思われているはずだ。他地域の人からも西浦に鉄道を通すべきだと賛同を得るためには、西浦全体が他の地域からも注目されるように活性化することが必要だ。
- ・ 名鉄は存続してほしい。バスは時間が正確でないため、通学する高校生にとって使いづらい。

- ・ 名鉄蒲郡線の利用を促進し、継続して運行できるようにする。

名鉄蒲郡線は存続してほしいが、西浦で生活が完結できればそれが一番よい。

- ・ 名鉄は存続してほしいが、本来的には西浦で生活が完結できればそれが一番よい。

■運営・仕組み

蒲郡市では使用料が無料の公共施設が多いが、有料の市町も多いのだから、将来の財政負担を軽減するために公共施設の有料化を進めるのがよい。

- ・ 将来の財政負担を軽減するためには公共施設の有料化を進めた方がよい。蒲郡市は無料の施設が多いが、幸田町など他市町は有料化しているところも多い。

空き地を公共施設のために無償で貸すシステムを作ってはどうか。例えば固定資産税の免除などがあれば地主は貸しやすいだろう。

- ・ 空き地を公共施設のために無償で貸すシステムをつくる。例えば固定資産税の免除などがあれば、地主は貸しやすい。

公共施設の維持管理やコミュニティバスの運行に、シルバー世代などのボランティアを活用すればコストの削減につながるのではないかな。

- ・ ぐるりんバスの運行や公共施設の清掃などに地元のシルバー世代の人材を活用すれば、雇用を生み出せ、コストの削減にもつながるのではないかな。
- ・ 公共施設の維持管理の担い手をボランティアで集めてはどうか。有償ボランティアでやっている例もあるようだが、むしろ無い方が平等に働きやすい面もある。情報発信のしくみや諸々を整えることで、思いがあって集まる人はいると思う。

西浦の小中学校の生徒数が少ないのなら、学区境界を少し移動させて、形原地区の学区を西浦側にもらうことで児童生徒数を増やせないかな。

- ・ 生徒数が少ないのなら、その対策として学区境界を移動させ、形原地区の学区を少し西浦側にもらってはどうか。

公民館や体育館などの公共施設の催事スケジュールが、もっと簡単に見られるようになれば参加者が増えるのではないかな。

- ・ 公民館や体育館などの公共施設の催事予定がもっと「見える化」されて、簡単に見られるようになると、参加者はもっと増えると思う。

3. その他（質問、ワークショップの進め方など）

- ・ 次回は市から再編の具体案がほしい。

- ・ 公民館のこれからのあり方を考える際には、現状の利用者や管理者の話聞く機会があるとよいと思う。
- ・ ワークショップに小学校の校長先生は毎回来ているのに、総代さんが来ていないのが残念だ。地域の人たちがまちのことを色々真剣に話し合っている生の声を現場に来て聞いてほしい。